

生分解性ポットを利用したイチゴの良質苗育成技術

農業試験場

研究のねらい

イチゴの育苗は年間労働時間の約1/10に当たる200時間余（本圃10aに必要な苗8,000株当たり）を占めており、栽培農家の大きな負担となっています。そこで、軽量、コンパクトで、苗の管理作業や、定植作業が省力的な生分解性ポット育苗（サブストレートポット、以下SSPと略す）での良質苗育成技術を開発しました。

研究の成果

- ①イチゴ育苗に用いるSSPの規格は、直径50mm、高さ70mm～80mmが適しています（図表省略）。
- ②育苗中の灌水は、点滴チューブを用いて防根シート上に灌水する底面給水方法により行います。自動灌水が容易で、省力的に良質苗の生産が可能で（図1、図2）。
- ③SSPへの子苗の採苗時期は、6月上中旬までに行うと苗の生育が優れ、定植後の収量も多くなります（表1）。
- ④SSP苗は慣行のポリポット苗に比べて花芽分化が早く、早期収量が増加し、総収量も同等以上が得られます（表2）。

成果の活用面・留意点

- ①育苗中の苗の密度は30cm×60cmの専用トレイに15株程度が適当です。
- ②施肥は子苗が活着後から5日に1回程度の間隔で液肥を施用します。また、ポリポット育苗で利用されている置肥も利用できます。
- ③SSP育苗では定植が遅れると収量が低下するため、花芽分化確認後は速やかに定植する必要があります。
- ④SSPの作成には専用の作製機が必要です。SSPを購入すると約17円/個の費用がかかります。



図1 イチゴのSSPによる育苗

表1 イチゴの生分解性ポット育苗における採苗時期と定植時の苗のクラウン径と収量(2003)

育苗方法・採苗時期	定植時のクラウン径	収量	
		12~4月	g/株
月/日	mm		
SSP・5/28	10.3		534.7
SSP・6/10	9.3		520.8
SSP・6/25	8.7		496.0
SSP・7/10	8.5		483.9
SSP・7/25	7.1		485.3
9cmポット・6/15	10.3		539.1

注) 品種: さちのか、定植: 9月19日

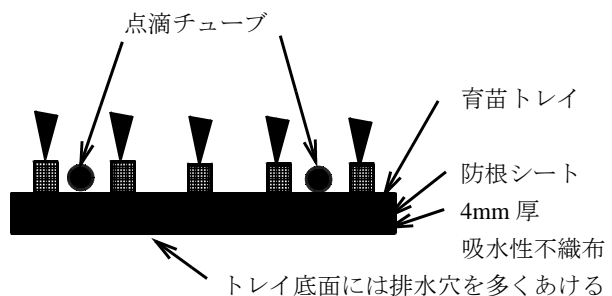


図2 底面給水方法

注) 防根シート上に余剰液が溜まらないように留意する

表2 イチゴの育苗方法と開花開始日、収穫開始日、時期別収量(2004)

育苗方法	平均開花		平均収穫			合計
	開始日	開始日	株当たり収量			
	月.日	月.日	g	g	g	g
SSP	11.06	12.19	90.6	76.5	356.9	524.0
ポリポット	11.15	1.07	10.7	141.7	337.2	489.5

注) 品種: さちのか、定植日: SSP 9月14日、ポリポット 9月22日、各育苗方法の花芽分化確認後速やかに定植した。

(問い合わせ先: 0736-64-2300)